

引田城(市史跡, 続百名城) (東かがわ市引田字宮ノ後)

引田城(ひけたじょう)は日本の城。所在地は香川県東かがわ市。

概要

引田城は城山と言われる山にある平山城で、初期の頃は、尾根伝いにコの字型に展開し、四隅には櫓を備えていた。現在の遺構は、四隅の櫓の内、北と西の2つの櫓を中心に残っている。

引田城は高松城や丸亀城と同じく生駒時代の城であるが、その後香川の歴史上から消え去っている。それは同じく高松城の支城であった丸亀城のように、その後再築されなかった事も要因の一つだと言われている。

1615年の一国一城令で廃城になった後、城がいつ取り壊されたかは不明で、長らく忘れられた存在だった。しかし近年、文化財として調査・保存の機運が高まっている。

沿革

- ・ 室町時代末期 寒川氏に属する四宮右近の居城になる。
- ・ 元亀元年(1570年) 三好氏に攻められ寒川氏は城を引き渡す。
- ・ 天正11年(1583年) 仙石秀久が入城。
- ・ 天正12年(1584年) 秀久は長宗我部軍に引田表で敗れるが、羽柴秀吉の四国平定後に再び秀久が入城。
- ・ 天正18年(1587年) 生駒親正が讃岐一国を得て入城するが、同年引田城が讃岐の東に偏っていたので聖通寺城に移る。
- ・ 元和元年(1615年) 一国一城令で廃城。
- ・ 平成29年(2017年) 4月6日、続日本100名城(177番)に選定された。

Wikipediaによる

